

『我が講を語る』

埼玉県狭山市水中講 宮岡 金次郎

我が講は戦後間もなく、隣村の小窪松五郎さんと言う方に農業の神様だからと誘われ、四、五人にて社家の橋本様にお世話になり、御嶽神社に参拝したのが始まりで、その後講を結び太々神楽を奏上致しました。

講員は農家が中心で、行事として毎年一月十五日御師様を御迎えし、公民館にて新年祈願祭と懇親会を開催、四月には五穀豊穣をお願いに代参者が参拝し帰村後下山祭を行い、秋は豊穣の御礼参りにバスを仕立てて全員で登山参拝を欠かさず行つて参りました。

講元は世襲の講が多いと聞きますが、水中講では任期を限定せず講元の申出で交代しながら現在まで続いて居ります。誰方がなられても世話人始め講員一丸となつて講元を盛上げ、こんな和やかで良い集まりはないと、何時も和気あいあいと行事に参加するのを皆たのしみにして居ります。

此も偏に御嶽神社の御加護と、橋本様の御指導の賜物と深く感謝して居ります。

『御嶽様の掛け軸』

埼玉県狭山市水中講 志村 芳蔵

私の家では正月十五日朝、御嶽神社の御神号の掛る床の間の前で家内安全と豊作祈願を行うのを例としている。

御嶽講には戦後少し遅れて講員となり、掛軸は代参の折橋本様をお願いして戴いたもので、普段は極く普通の床の間も、前日十四日御神号が掛かるだけで神聖な神々しさが漂い、気の引き締まる場所となる。

愈々十五日の早朝、御神号の下の小机には「繭だんご」が供えられ、その前に正座し掛軸を仰ぎ目を閉じると、御嶽の山の頂に御神木に囲まれ鎮まり給うお社が目に見え、一層敬虔な気持ちとなり、その前で拝礼祈願する。

その日は地区の御嶽講の新年祈願祭で、これに息子が参加し帰宅後、戴いてきた御札をこの床の間の小机に供へ手を合わせていた。その姿を孫が見ており、これらが我が家の仕来りとなり、今後も永く続くものと思われる。



第二十六回武蔵御嶽神社新年奉納俳句入選作品集

奉納式 平成十一年二月十一日

選者 来住野 臥丘

特選

- 一席 一段ずつ鈴の音降りる破魔矢かな 町田 中川 龍造
- 二席 柏手を拍ちて新年また新た 立川 宮脇 幸子
- 三席 凍てし蛾の吹かれていたり女坂 青梅 中村 ゆき子
- 四席 乗務員の制帽正す初鏡 青梅 持田 佐智子
- 五席 寒紅をさし大刀自の神詣 青梅 榎戸 温清

秀逸

- 東京の灯をまだ残し初日さす 狛江 蓑田 個
- ケープルカー発ちてホームに去年今年 青梅 原島 康典
- 初乗の手話に優しき目の集う 青梅 諸井 末男
- 年明けける山に聞こえぬ音たてて 入間 増岡 蛍雪
- 行きずりの人と見上げし冬桜 青梅 阿部 秋水
- 着ぶくれの一人のリフト大きく揺る 福生 浄法寺 朋実
- すれちがうリックにのぞく白破魔矢 福生 田光 絹代
- 神の山賀状を運ぶ赤バイク 入間 出川 平吉
- 句碑の裏見ていて鶴に覗かれし 青梅 佐久間 玄寿
- 初日拝す感動の渦地をつたう 羽村 横手 タマエ

選者吟

山巔は御嶽大嶽初霞

平成十一年奉納俳句選評

特選一席 「破魔矢は破魔弓につぐ矢であり、正月に子供の遊びに使ったものという。薬で円座状の物を造り、又は板の中央に穴をあけてこれを転がしたり空へ投げたりしてその穴を的に射て遊んだという。今は諸所の神社で、年頭の参詣人にかつ矢を破魔矢といひ、子供の息災を祈つて家に飾るようになり、給など付いた物もある。上掲の作は参詣の人混みの少なくなつた時のものか石段を一段一段と降りる度に矢に付いた鈴が清らかな音をたてて鳴る様を詠んだもので、初詣にふさわしい清浄さを覚える。

特選二席 「新年また新た」などの表現に生硬な感じがしないでもないが、実感のある素朴さがむしろ感動を新たにしている。

特選三席 「凍てし蛾」は寒さで水りついたように動かない蛾やすでに凍死したものをさして言う。「吹かれていたり」右のいずれであってもよい、己れの力で動くことも出来ぬ状態、あわれな感じである。この作は俳句の「女坂」で、風に吹かれて自力で動けぬと詠んだ哀れさの上に余情を曳くものが出て秀句となつた。女坂は神社などに多く、初詣の囁目と見て差し支えない。

特選四席 「制帽正す初鏡」ケープルカーの乗務員さんを詠んだものであろう。制帽正すは、初乗務に立ちつたことではなからうが、「初鏡」に似て己れの姿を写し見る様は更に静寂な感がある。

特選五席 「寒紅」大刀自「神詣」と名詞を並べ引き締まった感じ。結句になつた「神詣」は「初詣」では「寒椿」と季語が二つになるので二題句を避けたものと思われるが、むしろこの場合「初詣」と結んだほうがよかつたように思われる。刀自はよく言うが「大刀自」は聞き馴れぬ言葉だが旨く使われた。

俳句は十七音という短い形の文学であるので真似て作り易い欠点がある。作品の中に必ず作者の心の通つたものである事が大切である。

御嶽山の行事

一月	一日 元旦祭
	三日 太占祭
二月	節分祭
	初午日 稲荷社祭
	十一日 紀元祭・奉納俳句奉告祭
三月	八日 春季祭
	二十二日 御嶽山文化講座
四月	二十九日 奉納剣道大会
	下旬 産安社祭
五月	八日 日の出祭(例祭)
	十五日 男具那社祭
	二十二日 仏法僧と探鳥のつどい
六月	二十日 神楽と雅楽の一般公開
九月	十一日 カンタンを聴く会
	十四日 御嶽山文化講座
	十五日 神楽と雅楽の一般公開
	二十九日 流鏝馬祭
十月	十日 薪神楽
十一月	五日 秋季祭
	二十三日 末社祭
十二月	二十三日 天長祭
	三十一日 大祓
毎月	八日 月次祭
	毎日 日供祭